

山崎高等学校 同窓会便り

第51号

<http://www.yamako-dosokai.jp/>

山崎高等学校に縁のある、「ひと・こと・もの」をつなぐ年会誌



ようこそ「同窓会だより」

思い新たに

山崎高等学校同窓会

会長 本條 潔

(高16回生)



実りの秋を迎え、同窓会会員の皆様には益々ご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。

四月より山崎高校は、新たに西川茂樹校長先生をお迎えいたしました。伊和高校より着任されましたので、この地域のことはもちろん、山崎高校のことも熟知されておられますので、安心してお任せできる校長先生と確信しております。

さて、先日秋の体育大会が盛大に催されました。私事ですが、一

九六四年（昭和三九年）山高を卒業した年の秋、夜汽車に乗って上京し、同窓生の下宿を転々としながら、東京オリンピック（陸上水泳 マラソン）を直に観て回りました。体育大会で、生徒たちの力強い、生き生きとした活躍ぶりを目の当たりにして、東京オリンピックの熱い光景が重なりました。

おりしも二〇二〇年の東京オリンピックが、感動的なプレゼンテーションが功を奏して決定した直後のことで、その喜びが私の感動をかきたてたのでしょうか。現山高生もきつと胸を熱くしたと思います。オリンピックはアスリート達の戦いですが、生徒達が自分達の夢を、それぞれの分野であきらめることなく努力し、追い続けてくれることを願ってやみません。

我がOBの中に地域紹介の為に努力し続けた人がいます。来年のNHK大河ドラマに「軍師官兵衛」が決まりました。司馬遼太郎の「播磨灘物語」で記されている通り、黒田官兵衛は天正十二年（一五八四年）秀吉から穴栗郡一職を与えられ、領主となり、篠ノ丸城（現在の一本松）に居城しました。山崎市街地を見下す山上に築かれた

山城で、地域支配の拠点だったと言われています。この大河ドラマ実現に向けて多大なる尽力を払われたのが、我が同窓生、堂元光氏（元NHK大阪放送局長）であります。その意気込みを本紙に投稿されています。是非ご一読下さい。

今年の一月には山高同窓会阪神支部が誕生致しました。東京同窓会に次ぐ、二番目の支部として発展が期待されます。今後第三、第四の支部が結成されることを願っています。

末筆になりましたが、公立高校の「学区再編成」がいよいよ二〇一五年から実施されることになりました。現在穴栗市外から約三分の生徒達が通学しています。学区再編後には約半数の生徒が市外より通学すると言われています。少

子高齢化、それに加えて生徒の減少が進み、学校運営も非常に厳しい状況にあります。それでなくても優秀な生徒の市外流出が危惧されている折、私達同窓会は、学校当局とはもちろんのこと、PTAや評議員会の皆様と一緒に、この問題解決に当たらなければなりません。その為には皆様のご意見、ご要望、アイデア等々のご支援が不可欠です。思いを一つにして、ふるさと山高の発展を盛り立てていくようではありませんか。同窓会皆様のご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。



1964年 東京オリンピック
国立競技場にて



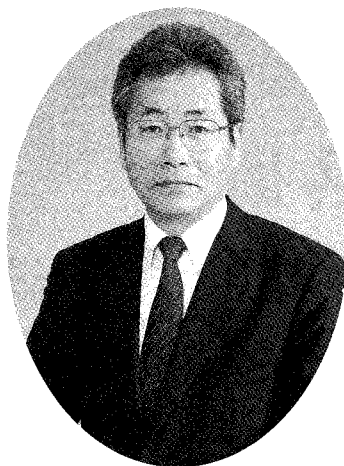
円谷 幸吉

宍粟に生き

宍粟を活かす

人づくり

校長 西川 茂樹



同窓会の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校教育の推進に対し温かいご理解と力強いご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

百年を超える伝統を誇り、地域の中心校である県立山崎高等学校への着任に当たり、大変緊張しましたが、同窓会長様をはじめとして皆様に温かく迎えていただき、本当に感謝いたしております。

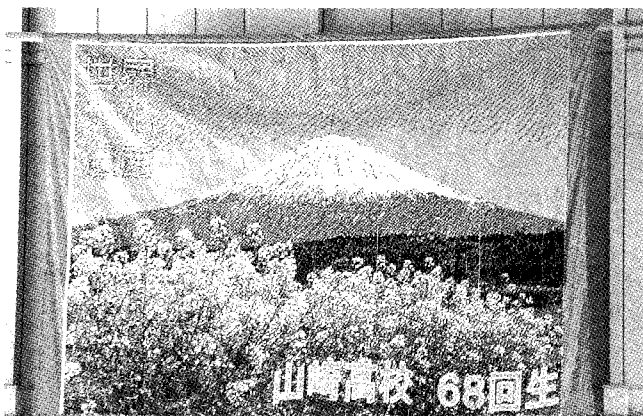
日々の授業や部活動、「山高街の駅」などの地域と結びついた活動に触れ、生徒たちの素直で前向きな姿勢と活力に、大きな伸びしろ



を感じております。

文化発表会で全クラスが合唱とひたむきに取り組む感動は山高でしかなしえないと確信した次第です。決勝では各学年トップが一步も譲らぬ競い合いを見せ、最優秀賞が二クラスという結果になりました。合唱を審査しながら感動のあまり、本当に涙が流れました。

少子高齢化や人口減少が進行する地域にあつて山高生への期待が高まっております。地域に根ざして三つの学科がそれぞれの特徴を打ち出し、また、一体となった魅力ある活動により「ふるさと意識」



を高め、自己有用感や意欲を引き出し、また、学習と部活動の文武両道に励むことで「確かな学力」とコミュニケーション能力を伸ばし、個性と笑顔が輝く、そのような山高づくりによって、同窓生の皆様の期待に応えるべく、宍粟に生き、宍粟を活かす人づくりに挑戦してまいります。

最後になりましたが、皆様方今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。



ようこそ 「同窓会だより」

夢は官兵衛 そして故郷

NHKプラネット近畿総支社長

第21回生 堂元 光 (昭和44年卒)



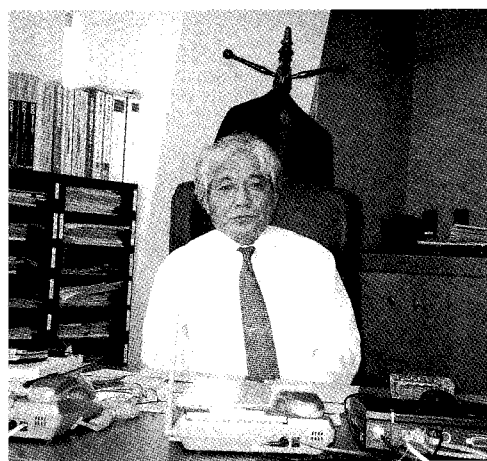
母校・山崎高校を卒業して、はや四十有余年が過ぎた。ふると山崎を離れて四十有余年と言ったほうがいいかもしれない。現役最後の舞台として関西・大阪に拠点を置いたのが、平成十八年の夏。ふるさと帰郷への思いが強まる中、残りの人生で何をすべきか、何ができるか……その時、司馬遼太郎の「播磨灘物語」が蘇る。播州・姫路が舞台であり、生まれ故郷・山崎が登場する一節も……。早速、黒田官兵衛の肖像画を局長室に飾り、一礼一拝を朝夕の日課に。来局する俳優やドラマの関係者も、一礼一拝。大河ドラマ実現に向けてスタートを切った。

最大のポイントは、姫路市の石見利勝市長との出会いである。石見市長の大河ドラマ実現への熱い思いは、NHKへの陳情運動へと展開。鎧兜に上り旗という度肝を抜く姿の陳情は、いまでも語り草になっている。そして、平成二十四年十月十日。大河ドラマ「軍師官兵衛」(主演・岡田准一)の発表である。姫路は舞い上がっていると一報も届く。私の官兵衛好きを知る同僚・仲間や姫路の友人・知人から電話やメールが昼夜の別な

く続いた。

大河ドラマは、全国各地からの陳情運動が相次いでいる。ただし、陳情すれば実現するというものでは決していない。地元の陳情が大河ドラマ実現の前提でもない。今回の場合、秀吉を天下人にした稀代の軍師・その生きざま等々、主人公・素材の良さと地元の熱い思いが見事に重なり合った結果と言える。

昭和三十八年の「花の生涯」から数えて五十三作目となる「軍師官兵衛」は、果たしてどのようなドラマ展開になるのか?どのようなメッセージを発信するのか?そして、何よりも地域の活性化や地域文化の向上につながればと願う。



堂元 光氏

プロフィール

昭和44年	兵庫県立山崎高校卒業
昭和49年	早稲田大学法学部卒業
昭和49年	日本放送協会採用
昭和54年	報道局・政治部記者
平成12年	報道局・政治部長
平成17年	報道局長
平成18年	大阪放送局長
平成24年	NHKプラネット近畿総支社長 (現在に至る)

来年一月の「軍師官兵衛」まであとわずかである。

宍粟・山崎と言えば……司馬遼太郎は、「街道をゆく」の中で、「播州揖保川・室津みち」を残す。司馬自身も一宮から山崎をルポ(平成十一年教育テレビで番組化)。福知溪谷を舞台にした田辺聖子の「すべつてころんで」は、昭和四十八年にドラマ化。平成二十年には、悲願の「のど自慢」開催(一宮スポニックパーク)。東日本大震災では、山崎小学校の児童たちが、いきものがかりの「エール」を熱唱し、被災地支援を(平成二十三年三月二十二日ニュース7放送)。一方、読めない書けないと評判?の宍粟

シリーズ

「懐かしき我が恩師」

初任の思い出

姫路市立姫路高等学校 教頭 前田 真吾

市だが、「難解難読逆手PR作戦」を展開中。「播州山崎花菖蒲園」には、世界的にも評価される萩巢樹徳氏の山崎伝統園芸植物研究所がある。「しそ」の逸話」を映像化する取り組みも続く。音水湖はカメラのメッカとして有力な地域資源に。

森林王国にふさわしい「しーたん体操」も浸透、やまちゃんさきちゃんも活躍中。伝説の山崎高校野球部（昭和四十六年夏・県大会決勝進出）は今も語り継がれている。「夢は追うもの叶うもの」ポスト官兵衛も夢はつきない……。



前田 真吾 先生

私の教員生活は、山崎高校から始まりました。憧れていた教職に就くことができ、ウキウキとワクワクと、そしてドキドキの想いを持って、校門をくぐりました。校庭の木々の素晴らしさに感激したのを覚えています。

山高では本当にたくさんの方や地域の方々に会いました。初めての校務分掌の教務部では、

全く仕事がわからない私に、部長の茨木先生・下大迫先生には根気強く教えていただきました。戦力というにはほど遠い仕事ぶりだったと思います。クラブ指導についても、プレイヤーの前に生徒であること、厳しさの後ろには綿密な計画と生徒を大切にすることが不可欠であることなど、本当に基本となることを伝授していただきました。その中でも、先生方から信頼されなければ強いチームは作れないという言葉は、今でも心に銘じています。授業では生徒一人一人の顔を思い、工夫を凝らし、いつも最善を尽くす姿勢の大切さを教えていただいたのも山高でした。お世話になった七年間で、私の教師としての立ち位置が定まりました。出会ったすべての方々に、心から感謝しています。

太子高校に転動した後は、サッカーに明け暮れ、生徒指導を担当しました。琴丘高校に転動してからも、サッカーと生徒指導。特に、サッカーはブラインドサッカー（視覚障害者サッカー）や知的障害者サッカー、脳性麻痺サッカーなど、障害者の方々とも一緒にサッカー



をさせていただいています。現在は、姫路市教育委員会に三年間お世話になった後、姫路市立姫路高等学校にお世話になっています。またいつか、皆さまにお会いできる日を楽しみにしております。皆さまのご健勝と、山高のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

がんばってます
新・社会人試行錯誤の日々と、
後輩へのメッセージ。

(株) 神戸製鋼所勤務

第 65 回生 山下 大成さん

山崎高校に入学し、卒業。そして二〇一三年四月から始まった神戸製鋼での新生活と、月日が経つのを本当に早く感じています。母校、山崎高校では、たくさんの「友」と出会うことができました。私がどんなに辛い時や悩んでいる時でも「友」はいつもそばで一緒に悩み、考えてくれました。そのような「友」の存在は、高校生活を送る上で大変有意義なものとなりました。部活動においても、「友」の存在は大変大きいものでした。私が、主将を任せられた時の話です。人をまとめることの大変さから、何度も

壁にぶつかり、その度に悔しい気持ちから涙したことがあります。そのようなときは、何がいかなかったのかを自問自答し、それでもわからないときは多くの「友」に助言を求めました。その甲斐あって、無事に主将としてチームを引っ張ることができました。私自身、この経験で大きく成長でき、自信も持てるようになりました。すべての出会い、経験に感謝しています。

社会人一年目、毎日慣れない環境の中、試行錯誤の日々が続いています。私が入社した年には九十名ほどの新入社員が入社したと聞いています。ほとんどの新入社員が工業高校の出身であることから、普通科の私は、入社初日から、普通科の私は、入社初日から差がついていると正直焦っていました。しかし、焦りすぎないように、山崎高校で学んだ「地道にコツコツする精神」の下、じっくり進めていこうと思っています。

後輩に向けてのアドバイスは、「悩むだけ悩め!」と「感謝を忘れるな!」の二つです。

高校卒業後、就職や進学と進むべき道は人それぞれです。しかし、高校時代でのこの選択が自分の人

生を決めることになるので、自身納得いくまで、長い時間かけて悩み、悔いの残らないよう「悩むだけ悩め!」。

今の自分は一人で大きくなったわけではありません。お世話になった先生方、学校行事でお世話になった地域の方々、苦楽を共にした友人、そして一番近くでいつも見守ってくれた両親がいたからです。そのような人たちへの「感謝を忘れるな!」。

私は、山崎高校に入学し、多くのことを学び、感じながら卒業することができて良かったと思っています。後輩たちも、自分たちの母校を誇りに思い、頑張ってください。



山下 大成さん

がんばってます
大学生京都での毎日、
高校生活で得た糧。

京都府立大学 文学部

第 65 回生 光岡早紀さん



光岡早紀さん (中央)

私が山崎高校を卒業してから四か月、山崎を離れ京都へやってきてから三か月が経とうとしています。月日の流れる速さに驚く一方、内容の濃い、充実した毎日を過ごせていることに改めて気づきます。京都には私の想像していた以上に素敵なところでした。あちこちに史跡があり、歴史を身近に感じることが出来ます。先日は友達と自転車で金閣寺へ行ったりもしました。さらに、世界的な観光都市で

もあるため、街では外国の人と言葉を交わす機会があったり、地元の方々は道案内などに慣れておられてとても優しくなったり、日常生活でも多くの刺激を受け、とても充実しています。大学では、大好きな文学に毎日触れることができ、教授のお話を、時々睡魔に負けながらも、納得や新しい発見をもつて楽しく聴き、のびのびと学んでいます。友達や先輩、教授、バイト先の人たちなど、周りの人々にも非常に恵まれ、幸せに思いながら楽しく元気に大学生活を送っています。

高校生活を振り返ってみると、思い出されるのはやはり三年生の一年間、受験勉強に費やした日々です。塾に行っていなかった私は毎日遅くまで学校に残って勉強していました。たくさん悩んで、泣いて、本当につらい一年間でしたが、今こんなに充実した大学生活を送れているのは間違いないからです。苦しんだ日々があったからです。幸せになるのに楽な道なんてない。私はそう思っています。一年間頑張ったよかったです。一人では決して

乗り越えられなかったとも思います。特に六十五回生の学年団の先生方には、私をこんなに素晴らしい進路へ導いてくださったこと、本当に感謝しています。いつも共に励ましあった友達も大切に大好きで、そんな人たちと過ごせた高校三年間は私の宝物です。そして同時に、好きなことを存分に学べるこの大学での私自身のこれからが本当に楽しみです。

後輩のみなさんも、これから自分の進路実現に向け努力を積み重ねていくことと思います。私のようにつらい思いをすることもあるでしょう。でも決してそこから逃げないでください。未来の自分の幸せを信じて、頑張って乗り越えてください。ほかの誰のためでもありません。自分のために頑張るのです。これは、孤独で戦うのとは違います。一人です。周りに頼ることも大切だということとを忘れないでください。必ず誰かが、また頑張る力を与えてくれます。私も、先輩としてずっと応援しています。

未来のあなたが幸せであります

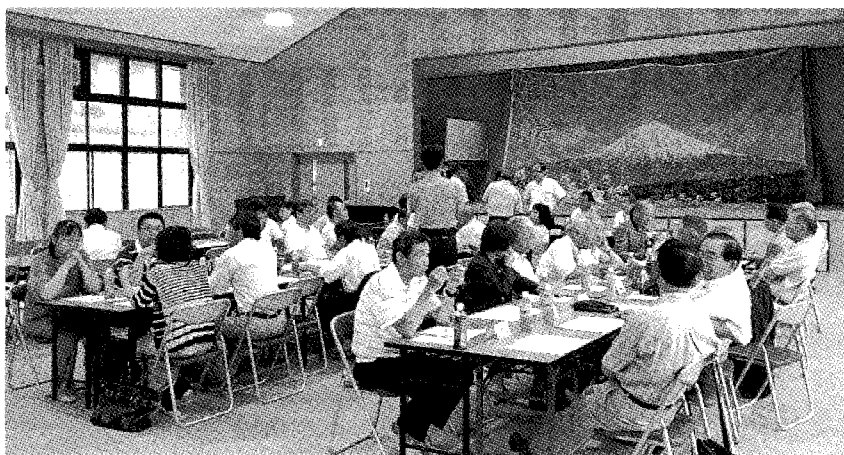
ように。あなたが高校生活で得る様々な経験が、その幸せの種となりますように。私も、山崎高校で得た種から大きな花を咲かせることができるように、日々頑張っていきたいと思っています。

平成二十五年

山崎高等学校 同窓会理事会

開催されました

六月十五日、平成二十五年山崎高等学校同窓会理事会が同窓会館に於いて行われました。多数の理事さんの参加を頂きました。最初に本條会長の挨拶、西川茂樹新校長の挨拶などがあり、その後、出席者の自己紹介、昨年度の報告、本年度の計画などが話し合われ、山崎高校・同窓会のますますの発展を申し合わせ閉会しました。尚、阪神支部の花本支部長も遠路出席して頂き、活動の様子をご報告頂きました。また、野球部OBの方に出席頂き、会結成への進み具合をご報告頂きました。卒業生の皆様、今後ともご支援のほどお願いいたします。



同窓会館にて理事会の様子。

(平成二十五年六月十五日)

同窓生の庭

全国に広がる同窓生の皆さんによる、情報、企画のコーナーです。
おたよりもお待ちしております！

第三回 東京同窓会開催記

第14回生

三木 勇

(昭和37年卒業)

平成二十四年十月六日(土) 東京日比谷の東京ファミリークラブにて、第三回東京同窓会が二年ぶりに開催されました。参加人数は三十余名とやや少なめでしたが、初参加の人も数名おられ、和気藹々の雰囲気でもたたく間に時間が過ぎ去った程です。

今回は、故郷の東京都の山崎高校同窓会長になられた本條潔氏をお迎えして故郷の懐かしいお話を伺うことが出来ました。次回はもう少し参加人数を増やそうと各年次毎の幹事と出身地域の幹事を置くことになりました。二年後の再会を約して、名残りを惜しみながらの閉会となりました。

なお、東京同窓会も役員の改選があり、次の方が選ばれました。



会長 三木 勇 (昭和37年卒)
副会長 赤川弘三 (昭和39年卒)
副会長 山本容子 (昭和37年卒)
事務局長 中津 進 (昭和43年卒)
事務局次長 久宗泰二 (昭和44年卒)

嵐山の紅葉に遊ぶ

第16回生

山下 孝二

(昭和39年卒業)

同期生春秋吉例の『山高39会世話人会』ツアーを師走の京都で開催しました。特に今回は、吉岡永世幹事のホームグラウンドでの集いでもあり、期待も大きく、遠来、珍客もあつて、三十名の盛会となりました。

夕方六時からのホテルでの宴会には、三時間も前からロビーを占拠して、近況の報告会です。本番もステージ衣装ご持参の歌姫達の声をBGMに、指定の席を入り乱しての歓談となりました。

中締めは定番の肩組み合つて大合唱「山うるはしき播磨路の」と「高校三年生」です。

次に待つのは、談話室でのエンドレスの歓談です。五十年前の回顧談義に花が咲きます(時効になった話しや、本音もポロリと出たりして)。



翌日は、お目当ての京都観光です。幹事の精微な企画と引率で、小春日和の嵐山の『なごりの紅葉』を堪能させて貰いました。小倉山の麓を散策の後の機敷での一服の茶も、天龍寺山内『篩月』の精進料理も大満足でした。コースの最後は、保津川下りに沿った『トロツコ電車』。さながら、高校の修学旅行の様相でした。

騒いでばかり居た訳ではありません

facebook

仲間、集まりませんか

山崎高等学校同窓会のHPが開設されていますが、時を同じくして山崎高等学校同窓会 Facebook のHPもできています。

Facebook をされている方はここに【いいね!】をしていただければ、新しい情報がアップされたときには各自のページにでてきますので、是非とも【いいね!】をしていただきたいと思います。

それに、ここにはどなたでも記事やコメントを書き込めますから情報交換とか連絡の場としても利用できます。多くの同窓会員の参加をお待ちしています。

是非一度ご覧下さい。

<https://www.facebook.com/yamakodosokai>

せん。今こうして、恵まれた境涯で居れることに感謝しながら、古里実粟や、母校山高の後に続く方に何が出来るかも話題にしました。結論として、「楽しい仲間を作ろう」、その為には「度々集まろう」、その為には「多段に集まる機会を作ろう」。

同期の『世話人会』もそうですが、この春には、『阪神支部の発会』、『啓明寮同窓会』が企画されています。皆さんも、積極的に参加してみませんか。

山崎高校同窓会阪神支部の第2回総会について（ご案内）

山崎高校同窓生の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。

本年1月、多くの同窓生の皆様にご参加いただき、「山崎高校同窓会阪神支部」が設立されました。

これを機会に、今後益々、同窓生の交流の輪を広げていければ幸いかと考えております。また、故郷を離れ、不安を抱いて進学、就職した新卒者の激励や相談の場にもなればとも考えております。

同窓生の皆様方におかれましては、当支部活動につきまして、格別のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

さて、阪神支部第2回総会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内いたします。お忙しいとは存じますが、在住・在勤の地域には特にこだわりませんので、お知り合いの同窓生の方をお誘いの上、多数ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。特に新卒者の方の参加を心よりお待ちしております。

なお、会場の準備がございますので、恐れ入りますが、ご出席いただける方については、下記連絡先までご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

日 時 平成26年1月26日（日） 12時～14時

場 所 パレス神戸 神戸市中央区下山手通5-1-16 TEL 078-371-7800

最寄駅 地下鉄「県庁前駅」、JR・阪神「元町駅」

会 費 6,000円（飲食代） ※但し、新卒者は1,000円

※ご出席いただける方は、12月31日までに次によりご連絡願います。

連 絡 先 神戸市垂水区西舞子6-3-70-603

森下二三哉あて

メール sp3x8a99@helen.ocn.ne.jp

連絡方法 「メール」若しくは「はがき」

連絡内容 お名前、卒業年次又は卒回生、住所、電話番号

山崎高校同窓会阪神支部

支 部 長 花本秀生（S39 卒）

副支部長 鯖尻昌弘（S40 卒） 小林俊明（S41 卒）

事 務 局 中野景介（S44 卒） 岡田泰介（S44 卒）

衣笠達也（S53 卒） 森下二三哉（S57 卒）

新名称について お詫び

「同窓会便り」の新名称について、十件程のご応募を頂いております。ご応募頂きました皆さん有り難うございました。選考に手間取り、決定が出来ておりません。二十六年度理事会で決定させて頂くことにしました。遅れていることをお詫びいたします。

全国各地に広がっています、 同窓生の輪

関東・甲信越地方

全国各地に広がる同窓生の輪、今回は関東・甲信越地方にお住まいの同窓生の声をご紹介します。

第22回生 須藤 恵子 さん（群馬県・利根郡片品村在住）

片品村は、武尊山や日光白根山などの日本百名山を有する高原のまちです。スキーや登山などアウトドアスポーツや、朝晩の気温差を活かした高原野菜でも有名で、特にとうもろこしの味は絶品とか。

また、村には5カ所の小水力発電所があり、そのひとつが国重要文化財の丸沼堰堤で、首都圏の電源供給地でもあります。



片品村はどんなところですか。

尾瀬国立公園と日光国立公園のふたつの国立公園があります。人口は約5,000人の小さな村です。多い時には年間380万人もの観光客が訪れるリゾート地です。

ペンションを開業して、はや30年。旭川から福岡まで、スキーや尾瀬の美しさに魅せられて、全国各地から移住してきた方も多く、自由な気風にあふれています。



高原のまちで、ペンションを経営されているとのことですが、片品村の魅力は何ですか。

スキーや登山はもちろん歴史や文化、温泉など、見どころがいっぱいです。



高校時代の思い出は？

同窓会にも参加できていませんが、今でも思い出すのは土曜日の帰り道によく行ったお好み焼き屋さん。店主のおばちゃんの笑い声と、友達との楽しい時間はいい思い出です。

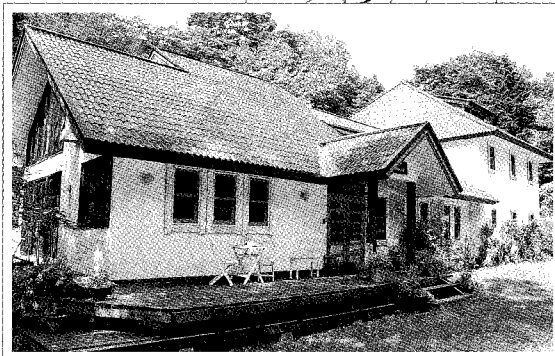


在校生や、全国の同窓生にひとこと。

尾瀬はもちろん、日光の観光の拠点としても、こちらにおでかけの際はぜひ、ペンションカレンズをご利用ください。みなさんにお会いできる日を楽しみにしています。



群馬県
片品村



ペンションカレンズ

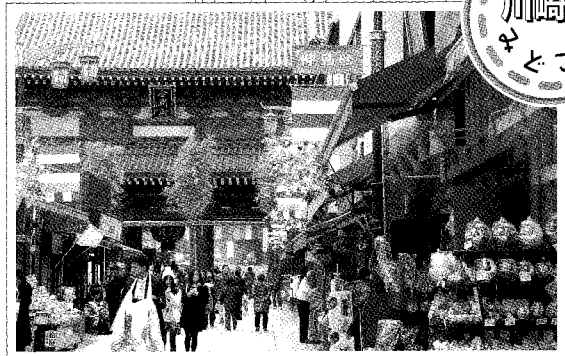
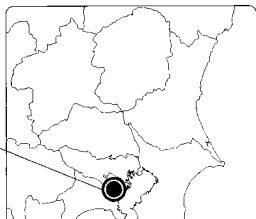
ペンションカレンズのホームページからは、料理や調度品にもこだわりが感じられ、須藤さんの心遣いが伝わってきました。もう高原の町は雪に包まれているのでしょうか。同窓生のみなさんもぜひチェックしてくださいね。

TEL (0278) 58-3923
<http://www2.ocn.ne.jp/~currants/>

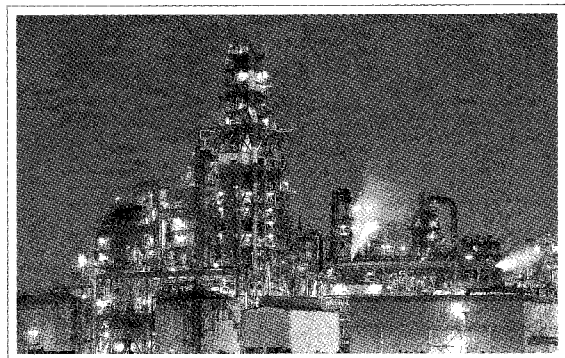
第41回生 K・Nさん（神奈川県・川崎市在住）

川崎市は、神奈川県北東部の政令指定都市。江戸時代から歴史の要所として発展してきました。近年では東京湾周辺の工業地帯としての顔だけでなく、若者のまちとして注目を集めています。そんな川崎市の暮らしについて、お話を伺いました。

神奈川県
川崎市



賑わう川崎大師



夜の工場地帯

* 写真提供 川崎市観光協会



川崎市はどんなまちですか。

宋栗市を離れて約23年。どこを見渡しても山、山、山だった山崎から一転、どこを見渡しても山の見えないまちです。



川崎市のおすすめのスポットはありますか。

厄除けで有名な川崎大師、ちょっと珍しいところでは夜の工業地帯。最近では「工場萌え」と言って、無機質な工場の夜景を鑑賞することを楽しむ人で人気です。



ふるさとを遠く離れたと実感されるのは、どんなときですか。

やっぱり、新幹線（笑）。新幹線でないと帰れないところです。それから、案外都心にも近くて、中学校の修学旅行で訪れた東京の景色が、日常の風景になったことも、不思議な感じがします。



在校生や、同窓生のみんなにひとこと。

山崎はのどかで、ほんとに住みやすいところだと思います。もうすぐ兵庫県に引っ越しするので、実家にも帰りやすくなります。同級生にも、久しぶりに会いたいです！

ふるさとを遠く離れた町にも、同窓生が。そう考えるとまだ訪れたこともない町にさえ、親近感が湧いてくるから不思議です。

お忙しい中、ご協力いただいた須藤さんと、K・Nさん、ありがとうございました。

information

少しでも多くの同窓会が開催されると嬉しく思います

回生の同窓会への助成金

回生全体の同窓会を開催される際は、2万円の助成をします。開催された同窓会の様子の記事（400字程度）に、写真を添えて、幹事の方は事務局までご連絡ください。

また、「開催予定の日時の連絡」に同窓会便りの紙面をご利用いただいても結構です。

回生だより



元気ですごしています

故郷は

遠くにありて思うもの

第11回生 大上 正司

平成二十四年三月三十日、山崎町「伊沢の里」にて、第五回目の同窓会を開催。私たちは、二年ごとに、実栗・阪神間・姫路と会場を持ち回りに開催しており、今年度は、六年振りに故郷での開催となり参加者も多いのではと期待していました。故郷は遠きにありて思うもの、そして悲しく詩うもの、例えば落ちぶれても、帰るところではないと一人、都の夕暮れに故郷を思い涙ぐむ」という詩があります。詩の通りとなり、都市部からの参加者が少なく少人数の同窓会となりました。

七十二歳になりましたが、まだ現役で頑張っている者、趣味をしかし社会に貢献している者、叙勲の受章者が同窓生から出る等、みんな山崎高校の同窓生であった事を誇りに思いながら頑張っていました。



第11回生 同窓会 2012年10月30日

す。

二年後に、神戸での再会を誓い、山崎高校の生徒会歌を歌いながら閉会しました。

啓明寮の会

第15回生 小林 盛司

今年四月七日に高校時代を過ごした啓明寮の三十六〜三十八年度卒業生の会（私は三十八年度）が半世紀ぶりに姫路でありました。私は仕事で（神職）残念ながら欠席。あとで聞くと、高校時代に還って大いに話が弾んだそうです。

当時三年生になると、寮にいては勉強できないと、寮を出るのですが、私とN君だけが残りました。私は、寮に残されたから勉強できなかつたと言いつてましたが、N君はがんばって勉強し希望の大学へ。どこにいてもやる気があればできる。目標をしっかりと持つ、悔いを残さないよう全力を尽くす、人生万事そうありたい。と、思うのです。

低血糖になった時の感謝

第16回生 土方あやの

私は五十歳になる前にI型糖尿病になり、現在インスリンを一日

に四回も打っている。

また、血糖値を日に三回測定しているが、不意に低血糖になり周囲の人達に大変迷惑をかけている。低血糖とは、血糖値が下がり過ぎて脱力感や発汗、目のかすみ等の自覚症状が現れると言われるが本人には、わかりにくいものだ。重症になるとけいれんや昏睡状態になることもあり。今までに救急車で数回運ばれている。この糖尿病はもう治らないが今の状態で何とか合併症が出ないことを願っている。低血糖になった時に、いろいろお世話になった人達に深く感謝しながら生きています。

生かされている

第19回生 志水 修

人の迷惑も考えず、自分勝手に「生きていた」中・高生。後ろから追いかけてられている毎日の浪人生活。やっと自分らしさが甦り生き生きとした大学生活。現役を引退して、5年前、山高の同級生の声かけで、今、体育協会の世話をさせてもらっている。会員の方々が、行事に取り組まれる前向きな姿に感動し、自分もみんなのために、生きてみようと思心した。苦しい時は、「人は悲しみが多いほど人に

やさしくできるから」の歌の一節を口ずさみながら、これからは、「生かされている」ことが実感できる生き方をしたいと考えている。

大切な出会い

第21回生 黒田 真隆

四十四年卒業の皆さん。いかがお過ごしでしょうか。

この原稿を書くに当たり本当に久しぶりにアルバムを開くと、昨年亡くなったと聞く、あの真つ直ぐな真つ直ぐなI君の顔がありました。涙が止まりません。

特別親しかった彼ではないのに、山高という同じ釜の飯を食った同窓生だから…。

僧侶になって二十五年目。縁ある友との大切な出会いが、私をここまで運んでくれました。また会って騒ぎ合いましょう。

心に残る七十年代

第31回生 杉本 勝則

私が山高生であった頃、七十年代後半は、日本の高度経済成長が一段落し、オイルショックにより高度成長は終焉を迎え、低成長時代へと移行していった時代でした。江川卓空白の一日、キャンデー！

ズ解散等衝撃的な出来事も懐かしく感じられます。

卒業から三十四年が過ぎ年齢も五十歳を超え、過去の記憶がだんだん薄れていくなかで、山崎高校で過ごした三年間は私にとっていつまでも心に残る七十年代最高の出来事でした。

大好きな山崎

第43回生 豊福 央子

結婚して現在明石に住んでいますが。二人の男の子の子育てに奮闘

中の毎日です。子供ができて実家に帰省する機会も多くなり、改めて地元の良さを実感しています。まずは自然。そして子育てがしやすい環境。そして何より人が優しいです。

今、振り返れば何と贅沢な環境で育ったのだと思います。田舎があるということは大変ありがたいことだと感謝しています。皆さんも、地元の良さを改めて感じてみて下さい！

同窓会名簿 発行のお知らせ

同窓会名簿を10数年ぶりに発行することになりました。

毎年同窓会便りを発行しておりますが、毎年約数百名の方から宛先不明で戻ってきます。全体から見ると2%ほどですが、年々累積するとすごい数になります。これを解消するために名簿を作成することにしました。

個人情報等色々論じられているところではありますが、問題になる点については十分精査し、同窓会の皆様にご迷惑が掛からないように配慮して参ります。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。詳しくは調査票をご覧ください。

～お願い～

「同窓会便り」に同封の葉書のご返信を忘れずをお願い致します。

また、広告掲載・個人協賛が大きな支援になります。ぜひ多数の方のご協力をお願い致します。

(文責：副会長 宇野正憲)

協力金のお願い

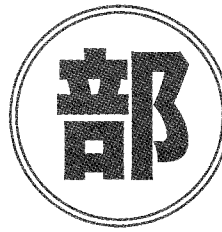
事務局より

＊「同窓会便り」は皆さまお一人おひとりの力で発行されています＊

毎年ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この「山崎高等学校同窓会便り」は母校や同窓生の近況をお知らせし、母校の発展と同窓生の御活躍の糧となりますように念じ、発行させていただいておりますが、その費用は皆様方の協力金で運営されています。出費多大の折とは存じ上げますが、引き続きお一人おひとりのご協力を是非お願いいたします。

歴史と実績ある部活動の数々。
毎号、運動部&文化部より1クラブずつご紹介
いたします。



活動の紹介 Club Activity

部活動紹介「体育部」

陸上競技部

2年生 藤木まどか

陸上競技の奥深さを感じながら。

日々の練習の積み重ね、それは自分自身に向き合うこと。

私たち陸上競技部は、昨年度に比べ部員の数が倍になり、日々活気あふれる練習に励んでいます。

陸上競技は単純なように思われますが、とても奥が深く、0.1秒、1cmの差で勝負が決定する過酷で繊細なスポーツです。そのわずかな差で自分が泣くか笑うかが決まります。大切なことは、日々の練習を積み重ねることだと思っています。当たり前のことを毎日こなすことは簡単なようですが、実際は本当に難しく幾度となく挫けそ

うになってしまいます。自分の限界を作ってしまうことで、自分の記録は伸びなくなってしまう。しかしそのような時には、部の仲間同士で声をかけて支え合い、試合に出て自己ベストを更新した時の何とも言い表せない嬉しさを思い出して、弱い自分に勝てるようにしています。

陸上競技部が最も大切にしていることは、練習のための練習ではなく、自分自身のためになる練習を日々やり遂げることです。ミーティングの時にはいつも、部長が今日一日の練習での反省点を言います。それを聞き、私たち部員は直さなければならぬ所をきちんと自覚し、翌日からの練習へと活かしていくようにしています。

また私たちの部は個人競技ですが、冬になると駅伝という団体競技も行います。一つのタスキに思いを込めて仲間のために走ることは、個人の種目の時とは一味違う喜びや感動が得られます。

どのスポーツも努力することは大前提です。しかしその努力を意味のあるものにする事ができる

よう、日々汗を流しながら自分自身と闘っているのが陸上競技部です。二十名という少人数ですが、自己記録を伸ばすためにチーム一丸となって、日々精進して練習しています。梶浦先生、朝長先生のご指導のもと、これからも今まで以上に練習に励んでいきますので、これからの活躍を期待して応援をよろしくお願いいたします。



私たち書道部は、三年生二人、二年生三人の計五人で活動しています。少人数ですが、顧問の住江先生、坂本先生のご指導の下、週一回、貴重な時間を大切にしながら部員一同頑張っています。書く時は、一所懸命集中して書き、休憩する時は、みんなと楽しく話したりと、はじめをつけて部活動に励んでいます。書道には漢字、仮名、調和体など様々な分野がありますが、どの書体でも先生に文字の特徴などを教えていただきたがら書くことができます。書いた

部活動紹介「文化部」

書道部

2年生 春名 芳香

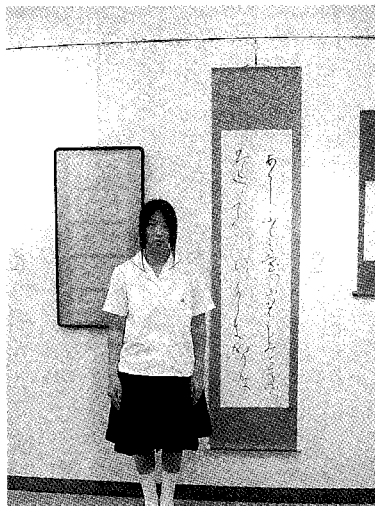
選抜書道展に参加して。

数々の文化祭に出品し、受賞するという得難い喜びがあります。

ことがなかった書体でも、先生に分かりやすく書き方を教えていただくことで、練習を重ねるうちに段々とうまく書けるようになっていきます。

私は、昨年の十一月の県高等学校総合文化祭で選抜賞をいただきました。そして、先日の七月十日から十三日に開かれた選抜書道展に作品を出品させていただきました。どちらも仮名の作品を出品しました。仮名文字を書くことはもともと好きなほうではなく、どのように書いたらよいか全く分かりませんでした。でも、この二つの作品を通して空間を意識しながら、流れを作ることが大切だということが分かりました。

今年の十一月にも総合文化祭に出品する予定です。今度は、さらに多くの部員が入賞できるように、そして、全国や近畿などのレベルの高い賞もあるので、そのような賞をいただけるような技術の高い作品ができるよう、日々の練習を頑張っていきたいと思っています。このように展覧会に参加させていただくと、他校の先生からもコメントをいただくことがありますので、とても励みになります。



新入部員も募集中です。これからもいっそう力を入れて練習に取り組んでいきますので、よろしくお願いします。

男子卓球部

兄弟ダブルス

2人でつかんだ近畿大会！

3年生

小椋 雄貴さん

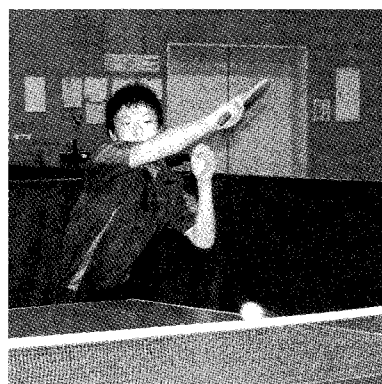
僕たち卓球部は、去年の六月に三年生が引退してから、近畿大会出場を目標に部活動を頑張ってきました。その中で僕はキャプテンという大役を任せられました。初めは、チームメイトをしつかり引く張ることができるだろうか、チームメイトがついて来てくれるだろうかなど、いろいろな不安がありました。しかし、全員が近畿大会出場を目標にしている、高い意識を持って練習に取り組んでくれたので、

安心してキャプテンを務めることができました。

僕は中学校のころから「近畿大会出場」を目標にして頑張ってきました。しかし、中学校では緊張や力不足で近畿大会にあと一步のところで負けてしまい、出場することができませんでした。高校生になって、僕は1年生でレギュラーとして、試合に出させていただきましたが、高校生の力強いボールに圧倒されてあまり良い成績をとることができませんでした。2年生の時もあり思うように成績は伸びず、あつという間に3年生最後の総体がやってきました。今までの悔しさをばねに、全身全霊をかけて、この最後の総体に挑みました。団体戦と個人戦は、惜しくも近畿大会まであと一步のところまで負けてしまいました。だが、最後の最後にダブルスで近畿大会に出場することができました。

こうして近畿大会に出場することができたのは、今まで自分のことをよく考え

てくれた家族や、共に汗を流して励まし合ったチームメイトのおかげだと思っています。そうした支えや応援に感謝し、兵庫県代表、そして山崎高校代表として戦ってきます。応援よろしくお願いします。



1年生

小椋 智哉さん

七月二十日、奈良の橿原体育館で開催された近畿大会にダブルスで出場しました。正直なところ、兄とダブルスを組み始めた時は、近畿大会に出場できるとは思っていませんでした。なぜなら、高校に入ってから初めて兄と組んで試合をしたのですが、見事に噛み合わず、グダグダで試合にならなかったからです。しかし、団体戦の中にダブルスがあつて、そのダブルスが試合の勝敗を大きく左右していたので、兄とダブルスを中心に練習を重ねてきました。結果は、団体戦はあと一步で近畿大会出場という所で負けてしまいましたが、ダブルスで近畿大会出場を決めました。

近畿大会当日、初めは緊張していなかったつもりでした。しかしいざ試合が始まると、慣れない雰囲気の中での試合に、二人とも思うように体を動かせず、1ゲーム目を取られてしまいました。でも、応援してくれていたチームメイトやコーチに励まされ、リラックスできたので、1試合目2試合目と勝つことが出来ました。目標としていた3試合目では、今大会の優勝チームと試合をしました。色々なことを試してみましたが、やはり相手は何枚も上手でした。この日は全ての試合で自分たちの力を出し切ることができたので、二人とも満足して近畿大会を終えました。

このような貴重な経験をすることができたのは、今まで自分を支えてくれた家族や夜遅くまで練習に付き合ってくれたコーチ、そして共に汗を流して励み合ったチームメイトのおかげだと思っています。この人たちがいなかったら、絶対に近畿大会出場はできませんでした。本当に感謝の言葉でいっぱいです。これらの感謝を胸に、よりいっそう部活動に励み、頼られるような選手になりたいと思います。

平成25年度 離着任職員一覧（敬称略）

離任職員

宮本 茂	校長	退職
柴原 一嘉	地歴・公民	網干高校（通信制）
古河真紀子	理科	姫路飾西高校
安達 洋介	英語	退職
柴田さとみ	家庭	太子高校
北中 志麻	理科	市立姫路高校
天野華那子	体育	姫路市立城山中学校
中野 宏哉	英語	滝川第二高校
菅井 太亮	農業	但馬農業高校
妹尾 恵美	養護	退職
原嶋 由佳	家庭	芦屋国際中等教育
橋本 裕司	農業	但馬農業高校
長谷川茉衣子	事務	播磨西教育事務所

着任職員

西川 茂樹	校長	伊和高校
北野 朋子	家庭	新採用
長谷川昇平	農業	新採用
岡田 伊代	国語	新採用
須藤 育子	地歴・公民	明石西高校
田原 鈴	理科	新採用
渡部 文也	理科	新採用
山本 緑	英語	新採用
柏木 悠里	養護	淡路三原高校
小田 美穂	家庭	新採用
尾西 芳和	農業	新採用
川口 修平	事務	新採用

平成24年度 卒業生の進路状況

国公立大学

兵庫教育大学	1
和歌山大学	1
岡山大学	1
鳥取大学	2
広島大学	1
島根大学	1
山口大	2
徳島大学	1
香川大学	1
愛媛大学	1
高知大学	1
宮崎大学	1
京都府立大学	1
兵庫県立大	1
神戸外国語大学	1
岡山県立大学	1
新見公立大学	1
鳥取環境大学	1
島根県立大学	2
尾道市立大学	1
高知県立大学	1
合計	24

公立短期大学

津市立三重短期大学	1
新見公立短期大学	1
倉敷市立短期大学	1
合計	3

私立大学

創価大学	1
東京農業大学	1
金沢工業大学	2
京都外国語大学	3
京都産業大学	3
京都橘大学	1
同志社大学	1
同志社女子大学	1
佛教大学	5
龍谷大学	2
大阪経済大学	1
大阪工業大学	11
大阪電気通信大学	4
関西大学	1
関西外国語大学	3
近畿大学	10
摂南大学	5
桃山学院大学	2
関西福祉大学	4
甲南大学	2
甲南女子大学	4
神戸学院大学	11
神戸芸術工科大学	2
神戸女子大学	11
神戸親和女子大学	4
神戸常盤大学	2
姫路獨協大学	5
兵庫大学	3
天理大学	2
岡山理科大学	3
川崎医療福祉大学	1
他 合計	133

私立短期大学

兵庫大学短期大学部	2
頌栄短期大学	1
神戸常盤大学短期大学部	2
関西学院聖和短期大学	2
神戸女子短期大学	7
姫路日ノ本短期大学	1
他 合計	18

看護医療系専門学校

相生市看護専門学校	1
朝日医療専門学校	2
旭川荘厚生専門学校	1
岡山労災看護専門学校	1
関西労災看護専門学校	1
順正高等看護福祉専門学校	3
玉野総合医療専門学校	1
津山中央看護専門学校	1
東洋医療専門学校	3
ハーベスト医療福祉専門学校	4
姫路経営医療専門学校	2
姫路市医師会看護専門学校	4
姫路赤十字看護専門学校	1
舞鶴医療センター附属看護学校	1
公立八鹿病院看護専門学校	3
神戸総合医療専門学校	1
西はりま医療専門学校	2
大阪医専	1
姫路医療センター附属看護学校	1
他 合計	34

その他の専門学校

大原簿記法律専門学校	1
トヨタ神戸自動車大学校	4
姫路理容美容専門学校	4
兵庫県立農業大学校	2
兵庫県立ものづくり大学校	2
神戸ベルエール美容専門学校	1
大阪モード学園	1
辻製菓専門学校	1
日本栄養専門学校	1
姫路情報システム専門学校	7
他 合計	43

公務員

兵庫県警	5
自衛隊	1
自衛隊	2
他 合計	8

民間就職

(株) IHI 相生工場	1
(株) 神戸製鋼所加古川製鉄所	1
(株) ミズノインダストリー波賀	1
(株) マルタニ	1
(株) 一宮電機	1
寿製麺 (株)	1
兵庫西農業協同組合	1
フクシン金属工業 (株)	1
他 合計	39



お願いとご挨拶

本会は、皆様にご協力頂いております協力金により、「山崎高等学校同窓会便り」(現在までの名称)の発行ほか会員相互の親睦・交流事業、後輩諸君への支援事業などが実施されております。皆様方の温かく力強い支えにより、これらの事業・取り組みが安定的かつ継続的に運営されていることに、あらためて感謝申し上げます。今後とも、本会活動へのご支援並びにご指導ご鞭撻のほど、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

平成24年度

同窓会便り発行収支報告書

収入の部

新聞発行協力金 2,178,150 円

支出の部

印刷及び封入費用 1,861,675 円

送料 1,230,565 円

消費税 155,326 円

合計 3,247,566 円

※不足分は一般会計から補填

お便りやご感想をぜひお聞かせください。お待ちしております。

編集後記

写真を撮るのが趣味ということもあつて、最近では自宅周辺の町並みや風景を沢山撮影しています。

どこかで発表するとか、誰かに見せるとかではなく、あくまで個人の楽しみなのですが、何気ない些細な変化も、重なっていけばやがて懐かしい景色となるのでしょうか。そう思いながら、日々続けています。

そう考えるようになったきっかけは、自分の記憶の不確かさ。家が取り壊されたり新しい道が出来る、元の場所に何があつたのか全く思い出せないのです。毎日のように通っていた道であつても忘れていく寂しさや儚さを感じるようになってきました。忘れることも大切だと思いますが…。

皆さんにとつての故郷はどんな風景でしょうか。カメラ片手に散歩してみませんか？路地などを歩いていると懐かしさが込み上げてきますよ。

この「同窓会便り」を通して、少しでも故郷や山高を感じていただけたら嬉しく思います。読者の皆さんと作り上げる紙面になればと願っていますので、ご意見やご感想をお待ちしています。